

|                   |   |
|-------------------|---|
|                   | 東京工業大学 理学分野   |
| 学部等の教育研究<br>組織の名称 | 理学部（第1年次:185）<br>生命理工学部（第1年次:150 第3年次:10）<br>大学院理工学研究科（M:664 D:212）<br>大学院生命理工学研究科（M:146 D:44）<br>大学院総合理工学研究科（M:494 D:219）<br>大学院情報理工学研究科（M:116 D:38）<br>資源化学研究所<br>応用セラミックス研究所<br>学術国際情報センター   |
| 沿 革               | 明治14（1881）年 東京職工学校創立<br>明治23（1890）年 東京工業学校と改称<br>明治34（1901）年 東京高等工業学校と改称<br>昭和4（1929）年 東京工業大学設置<br>昭和9（1934）年 建築材料研究所附置<br>昭和14（1939）年 資源化学研究所附置<br>昭和18（1943）年 窯業研究所附置<br>昭和19（1944）年 燃料科学研究所附置<br>昭和24（1949）年 新制東京工業大学工学部設置<br>昭和28（1953）年 大学院工学研究科修士課程・博士課程<br>（現、博士後期課程）設置<br>昭和29（1954）年 資源化学研究所及び燃料科学研究所を、資源化学研究<br>所に整備<br>昭和30（1955）年 工学部を理工学部と改称<br>昭和31（1956）年 大学院工学研究科を大学院理工学研究科と改称<br>昭和33（1958）年 建築材料研究所及び窯業研究所を統合し、工業材料研<br>究所附置<br>昭和42（1967）年 理工学部を理学部、工学部に分離<br>昭和50（1975）年 大学院総合理工学研究科修士課程・博士後期課程設置<br>昭和51（1976）年 総合情報処理センター設置<br>昭和54（1979）年 理工学国際交流センター設置<br>平成2（1990）年 生命理工学部設置<br>平成4（1992）年 大学院生命理工学研究科修士課程・博士後期課程設置<br>平成6（1994）年 大学院情報理工学研究科修士課程・博士後期課程設置 |

|              |  |
|--------------|--|
|              | <p>平成8（1996）年 工業材料研究所を改組し、応用セラミックス研究所附置</p> <p>平成13（2001）年 総合情報処理センター及び理工学国際交流センターを廃止し、学術国際情報センター設置</p> <p>平成22（2010）年 資源化学研究所、応用セラミックス研究所及び学術国際情報センターを共同利用・共同研究拠点に認定</p>  |
| <p>設置目的等</p> | <p>明治14年、日本の工業の振興を図ることを目的に、東京工業大学の母体である東京職工学校が設置された。</p> <p>昭和4年、深い工学的素養とそれを自由に活用する能力を有する専門家を養成し、産業への貢献に重きを置く特色ある大学を設置することを目的に、東京工業大学が設置された。</p> <p>昭和14年、資源に関する学理及びその応用の研究を理念とし、資源化学研究所が附置された。</p> <p>昭和24年、将来工業技術者、工業経営者、理工学研究者並びにその教育者として指導的役割を果たすことができる有能善良な公民を育成する目標の下に、これに必要な一般的教養と専門的訓練を学生に付与するとともに、科学及び技術の水準を高め、もって文化の進展に寄与し人類の福祉に貢献することを目的に、新制東京工業大学が設置され、同時に工学部が設置された。工学部には10のコースが設置され、そのうちの三つ（数学、物理学、化学）が今日の理学部・大学院理工学研究科理学系の源流となった。</p> <p>昭和28年、学部における一般的並びに専門的教養の基礎の上に広い視野に立って各専攻分野を研究し、精深な学識と研究能力を養うことを目的に、工学研究科修士課程が設置された。また、独創的研究により従来の学術水準に新しい知見を加え文化の進展に寄与するとともに、各専攻分野に関し研究を指導する能力を養うことを目的に、工学研究科博士課程が設置された。</p> <p>昭和30年、工学部は理工学部と改称され、従来の数学、物理学、化学コースがそれぞれ学科として発足し、対応して、昭和31年、工学研究科は理工学研究科に改称された。</p> <p>昭和42年、技術革新に即応した新分野への対応、並びに理学、工学それぞれの分野の教育・研究の充実を目的に、理工学部が理学部、工学部に分離された。</p> <p>昭和50年、境界領域の教育・研究を行い、世界の科学技術の新しい発展分野に対応できる優れた指導的人材の養成を目的に、総合理工学研究科が設置された。</p> <p>平成2年、生命理工学分野における科学技術の最先端の教育研究の場として優秀な人材の養成と研究の進展に寄与することを目的に、生</p> |

|                     |  |
|---------------------|--|
|                     | <p>命理工学部が設置された。</p> <p>平成4年、生命理工学分野について研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養い、将来指導的役割を果たす人材の養成を目的に、生命理工学研究科が設置された。</p> <p>平成6年、最先端の情報系の教育研究を展開することにより、研究者として自立して研究活動を行い、又は高度に専門的な業務に従事する人材の養成とともに、人間・社会に調和した21世紀の高度情報化社会の実現に貢献することを目的に、情報理工学研究科が設置された。</p> <p>平成8年、工業材料研究所が改組され、セラミックスに関する学理とその応用の研究を目的とした全国共同利用型研究所として、応用セラミックス研究所が附置された。</p> <p>平成13年、総合情報処理センターと理工学国際交流センターが廃止され、本学の情報基盤提供の拠点となり、世界最高水準の情報環境を整備するとともに、情報基盤を活用した本学の国際活動の拠点となることを目指して、学術国際情報センターが設置された。</p>  |
| <p>強みや特色、社会的な役割</p> | <p>東京工業大学においては、世界に雄飛する気概と人間力を備え、科学技術を俯瞰できる優れた理工人材の輩出とともに、特に理学分野においては、自然界の真理の探求を通じて人類社会の発展や文化の進展に貢献することにより、世界最高の理工系総合大学、即ち「世界トップ10に入るリサーチユニバーシティ」を目指しており、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 科学技術の高度な知識を国際社会で活用し、我が国及び世界の発展に貢献する「時代を創るグローバル理工人」の育成の理念のもと、学部・大学院教育を通じて、高度な専門人材の育成の役割を果たすとともに、学術分野及び企業等で活躍する高い研究能力を有する先導的な人材の育成の役割を果たす。</li> <li>○ 大学の壁を超えた連携や、教員の教育力向上、視野の広い人材の育成にむけた取り組みなど多くの特色ある教育改革を進めてきた実績を生かし、グローバルに活躍できる高い意識をもつ理学系人材の育成を目標として、国際的水準を踏まえた質の高い学部・大学院一貫教育に向けて教育改革を推進する。</li> <li>○ 世界の理工系有力大学とのネットワークを強化し、世界的規模での学生・研究者の交流を推進する。</li> <li>○ 研究の質・量ともに世界トップクラスである物理学や化学をはじめ</li> </ul> |

めとして、世界トップレベル研究拠点となる研究所を有する地球惑星科学、国際学術誌の刊行拠点である数学、数理科学・計算科学の基礎から応用までその最先端で世界をリードする情報科学、先端的融合研究を推進する生命科学などの研究実績を基盤にして、国内外の研究拠点との強力な連携を強化しつつ、世界トップクラスの研究を推進する。

- 無機系新材料の物性理論科学及び資源化学の基礎的学理に関する研究、世界最高水準のGPU型スーパーコンピュータ（TSUBAME）の開発・性能向上を継続的に行い、世界トップレベルの研究を推進する。また、その研究施設・設備を広く国内外研究者の利用に供し、社会的役割を果たす。
- 地域や全国の小中高校生を対象とした理数教育振興に向けた取り組みなどの実績を踏まえ、これらの活動を更に強化する。これにより、企業等で活躍する幅広い理工系人材の育成に初等中等教育の段階から寄与していく。
- 多数の科目等履修生等で社会人を受け入れてきた実績に基づき、社会人教育の強化を図る。